

京都府 京北商工会青年部・女性部

体験ツアーでカブト虫

京都市右京区京北でこのほど、商工会青年部・女性部主催の「自然満喫親子で体験ツアー」が開かれた。地域活性化につなげようと初めて企画した催しで、市の都市部から二七人が参加した。

JR京都駅前をバスで出発した体験ツアー一行は、昼前に京北森林公園（京北塔町）に到着。公園では、同商工会の青

年部がカブト虫を捕る一般市民向けのイベントを開いており、一行も参加した。木の板で囲った縦約三メートル、横約五メートルのカブト虫ドームに入り、雌雄一対のカブト虫を捕った。

昼食では、女性部手作りのアユ飯などを賞味。午後は、伏条台スギなど自然の森で知られる「片波川源流域」を訪れた。女性部は十月十四日にも、秋の祭りを楽しむ体験ツアーを予定している。



秋田県 ゆざわ小町商工会青年部

スタンプラリーで特産品を当てよう!!

県商工会連合会から委託を受け実施している「あきた美人と匠（たくみ）の郷」をテーマとしたPR事業の一環として、商工会青年部（佐藤正明部長）は、市内の観光スポットをめぐるスタンプラリー「いいどおーこのみせえー」を五月から実施している。

新たに作製した「湯沢市ポケットマップ」を手に、楽しみながら市内各所を歩き、スポット別に分類された三色のスタンプを集めて応募するというもの。専用台紙に赤（お土産）、緑（お食事）、青（温泉）のスタンプを全色集めると、ラリーのゴールとなる。

抽選で▼秋田美人賞（小安峽・秋の宮・泥湯各温泉のペア宿泊券）六組、▼匠の郷賞（稲庭うどんセット、川連漆器、日本酒など）五〇人、▼こ

まち賞（お香セット、白米、三梨牛など）一〇〇人、計一五六人に特産品が当たる。

スタンプは温泉旅館・飲食店・特産品販売店など一八カ所に設置され、目印ののぼりが立っている。台紙はスタンプ設置場所のほか、市商工観光課、皆瀬物産館、商工会本所でも配布している。実施期間は十月末日まで。



山形県 尾花沢市商工会青年部

市街地にホタルを増やして地域活性化

商工会青年部（鈴木亘部長）は、地域活性化を図り、次世代に良好な自然環境を引き継ぐこと、二年前から新堰（しんせき）用水路でホタルを育て、舞

わせる取り組みを続けている。

二年目の今年は、持ち込んだ数を上回るホタルが六月中旬から舞うように

なり、七月五日に青年部が開催した鑑賞会にも四〇人ほどが訪れ、青年部は大きな手ごたえを感じている。

新堰用水路は約一〇〇メートルが市中心部の南東部を流れる農業用の用水路で、もともと数は少ないながらもホタルが生息していた。これをさらに増やそうと、水流を緩やかにするた

めに川底に丸太を敷き、川の清掃や「ゴミを捨てないなど周辺に住む住民にも協力を求め、生息環境の整備・改善に取り組んでいる。

ホタルの幼虫の餌になるカワニナも放流し、市内で「ホタルの里」として知られる牛房野からゲンジ

ボタルのサナギを約二二〇匹移したが、ピーク時には一五〇匹ほどが確認できた。サナギが全部成虫になるわけではなく、またヘイケボタルも多くみられたことから、新堰周辺のホタルが育ったと思われる。

当初からアドバイザーを務めてきた「牛房野川のホタルを守る会」の星川茂平治さんは、「取り組みはここまで成功といえるのではないが、また鈴木部長は「五月には「ゴミ拾いで」「ニールや空き缶、木片などを除去しました。周辺住民の方々の協力も大きくなっています。水路に面した部分の草刈りを村山北部土地改良区から任せてもらうなどして、今後も着実にホタルを増やしていきたい」と語っている。



石川県 能美市商工会

アイドリングストップは 商工会から

商工会では七月十日まで、「eco nom」と銘打ち、地球温暖化対策の一環として、「アイドリングストップ」を宣言するステッカーの販売を行った。

啓発だけでなく、商工会会員が活動に関わる意識を持ち、運動の輪を広げるため、一枚三〇〇円で販売した収益金は、地域の環境活動を支援する財源として役立てる。

ステッカーは、辰口地区の若手経営者らで組織するNPO法人エコ未来塾（善田善彦理事長）が企画・作製した。縦八センチ、横一〇センチの磁石式で、「eco nom」みんなで止めよう温暖化」と呼びかけた。

エコ未来塾は二〇〇五年から休耕田で菜の花を栽培し、収穫した菜種油を使った照明を並べるイベントや、北國新聞社後援で「菜の花フェスタ2007 inのみ」などを通じて、親子で理解を深める環境活動に取り組んできた。



今回は、新たな事業として、自動車の二酸化炭素排出削減のため、アイドリングストップ運動を企画し、幅広い活動を展開しようと、商工会が会員でもある能美市民環境ネットワーク（今年四月発足）が窓口となって、ステッカーを販売することにした。

善田理事長は「今後は賛同する事業所間のラリーなども企画し、ステッカーの普及・拡大をめざします。商工会から市民に広く運動を広げていきたいと考えています」としている。

岐阜県 北飛騨商工会

雪だるま発送、涼しさ満点

七月十一日、一八日、二五日、商工会会員でつくる「北飛騨むらおこし実行委員会（清水昭南委員長）は、豪雪地帯の町内の雪室で保存していた雪で作った雪だるまの発送を行った。



同実行委員会が毎年行っている企画で、今年が三回目。夏の涼しいプレゼントとして冷凍の宅配便で送るものだ。子どもや孫への贈り物としての人気も高く、今年は初年度の倍の二〇〇個の注文が入り、申し込みを打ち切った。

高さ三五センチ、幅二センチの雪だるまは、会員らが雪室周辺の牧草地で集めた「飛騨かわい雪中酒」の雪室貯蔵の雪を活用して作る。雪だるまの型に雪をつめ、ハンマーで叩いて圧雪し、木片で目や鼻をつけ、紙コップの帽子をかぶせる。雪が解けると、中から人形が出てくる仕掛け。

「沖縄や九州、愛知県や大阪府などからも注文が来れています。観賞用のものですが、子どもが口に入れたりすることも考え、きれいな雪だけを使っていきます。飛騨を思い浮かべながら、涼をとってもらえるといい」と清水委員長は話している。

徳島県 北島町商工会

いつでも無料で古紙回収

商工会（天羽修会長）は三月から、一般家庭や町内事業所から出る段ボール・古紙・雑誌の無料回収に取り組んでいるが、「いつでも無料で引き取ってもらえるので、とても助かる」と住民や事業所に喜ばれ、これまでに予想の倍の六・一トンを回収した。

町民が近くの小売店などに古紙を持ち込むと、その店が商工会が設けた保管庫まで運ぶ。古紙は専門業者に有料で引き渡し、収益は電気代などの運営費に充てている。古紙回収サービスをす

ることで、町民に店に親しんでもらい、顧客の確保や売上増も図ろうとしている。

商工会は当初、業者の回収を月一回程度と見込み、約一トンの古紙が入る保管庫を設けていた。出前の際に古紙回収サービスを行う飲食店もあり、半月もすれば満杯になる状態が続いている。

中野英雄主席経営指導員は「加盟店・町民の双方に有益な事業ということで、評価されたのだと思う。現在は商工会加盟三九〇店舗のうち、小売店など九〇店が登録しているが、登録店を増やし、顧客がどこに紙を持ち込んでも回収ができるようにしたい」と話しており、商工会は保管庫の増設を検討している。